

南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

令和4年7月20日

7月号②

さいたま市立南浦和小学校
電話 048-861-3781



校長室がいつもきれいな理由

校長 小野 圭司

本校は、昨年度の教育アンケートにおいて「教育環境を整え、清掃や掲示等きれいな学校づくりに取り組んでいる」の項目で9割近くの肯定的な回答をいただいています。これは、子どもたちが掃除をよく頑張っていることも要因の一つだと思います。

本校では、水曜日以外の13時30分から15分間、掃除の時間が設定されており、校長室には2年生が4人ずつ1週間交代で掃除に来てくれています。私の出張等がある日もありますので、同じ子たちが3～4回はやってくれるでしょうか。1回目は、「今日はやり方を教えます。覚えてください。」と細かく指導しますが、2回目以降は「1回目に教えたことを思い出しながら、やってください。」と半分くらいは子どもに任せます。毎回「今日は早く終わったね。」や「みんなが協力してくれたので、いつもよりきれいになりました。」などと評価もしています。3回目になると、私はベランダに行って窓ガラスを拭いたり、廊下に出て展示ケースを拭いたり、ほぼ任せます。時々注意することもあります。基本はその4人に任せると張り切って掃除をしてくれます。

また、子どもたちからは1回目にこんな声を聞きます。「校長室はほとんどゴミがなく、きれい。」と。その時には私から「先週の掃除当番がよくやってくれたからね。」と返します。このことはもちろん事実です。この言葉を聞くと子どもたちは競争意識が高まるのか、より頑張ろうとする姿が見られます。

本校の校長室は、長年2年生が掃除をしてくれています。2年生の教室と同じ階にあるということも理由だとは思いますが、私はそれ以上に校長室の掃除が「自分の役割を認識し、その役割を果たそうとする」2年生の発達段階にぴったりだからではないかと考えます。「校長室」や「校長先生」など、普段の生活と一線を画す「場所」や「人物」とのかかわりなどにも一種のプレミアム感があるのかも知れません。また、校長からは「ありがとう。」や「よく頑張ったね。」など褒められることが多く、自己有用感も高まっているのではないのでしょうか。「褒められる」→「自己有用感が高まる」→「さらに頑張る」→「また褒められる」→「さらに自己有用感が高まる」→「もっともっと頑張る」・・・。校長室がいつもきれいな理由は、このようなよいサイクルのおかげです。

明日から36日間の夏休みとなります。本校が進めている「スマイル大作戦」を各ご家庭でも進めていただければ幸いです。本日の終業式では、「ス」「マ」「イ」「ル」のうちの「ル」について話をしました。夜遅くまで起きていて次の日に朝寝坊。その日にやろうと思っていたことをできずに後悔。自分を律する（コントロールする）ためには、起床・就寝時刻を決めるなどの「ル」ールづくりも大切だという話をしました。

子どもたちは、夏休みが始まったばかりには「こうやりたい」「目標は〇〇だ」など張り切っているはずですが、しかし、その気持ちを維持していくことが難しいため、保護者の皆様の出番をお願いしたいです。小さな頑張りを見逃さずに褒めてあげてください。そうすると、やる気が高まり、さらに頑張るはずですが、ぜひ、よいサイクルを作ってください。

保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力のおかげで、1学期を無事に終えることができました。ありがとうございました。コロナの第7波が心配なところではありますが、健康や安全に留意しながら元気にお過ごしください。